（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム　かなれ　2F		
所在地	名古屋市名東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	H29.11.20	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ（和）の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成30年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことは支援させて頂いております。　笑顔で生活できるように
支援させて頂いております。　室内を清潔
に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よく見える所に「その人らしく」といういう理念を書いて貼ってある。スタッフ間で共有し、常に意識し確認できるようリビングに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時は率先して挨拶している。中学生の体験学習の受け入れをしている。初詣に行ったり喫茶店に行ったりしている。イベントや行事の時は地域の方のお声をおかけしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で理解を頂いているが、その他はなかなか活かされていない。地域との交流は薄い部分もあり、認知症への理解が十分にされているとはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を参考にして、サービス向上に活かしている。消防訓練、ボランティア、外出、認知症カフェなどの情報を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの職員に参加して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全を最優先に考え、ご理解をいただいた上で施錠している。身体拘束はしないケアに取り組んでいる。身体拘束にならないように意識した介護を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が学ぶ機会はないが、資料はまわしている。スタッフ自身が意識を持ち、スタッフ間でも注意することが大切といえる。日々の様子を常に観察し、小さな傷でも原因を追求している。管理者や職員同士でよくコミュニケーションをとり、負の感情が生まれない様注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については以前利用されている方がみえたので話は聞いたことがある。パンフレットもみたことがあるが、現在は研修は行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に尋ねたりしている。面会時のご家族のお話しの中でご要望あれば聞いている。事前の契約時に外部に相談できる苦情窓口については、お知らせしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議をして、その時の意見を運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員から意見や状況を聞き、それを代表者に報告し、現状を把握できるよう努めている。人員不足もみられ、負担が増えている状況の時がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する人もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会がなかなかない。同じ系列の他施設への見学を行い、そこでどのようなサービスをおこなっているか等勉強させて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問し、センター方式の用紙に記入して頂き、それを参考にしながら、ご本人の様子を見守り、傾聴して信頼関係を作っていけるよう努めている。本人の表情、しぐさをよく観察し、訴えが無い場合も声かけ等で不安を軽減できるよう取り組む様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時、契約を結ぶ時に困っていること等伺っている。入所前に伺ったご要望にそった介護を心がけ、入所後も家族と連絡等によって不安に思われている事等をお聞きして信頼できる関係を作っていく。ご家族様が意見や要望を言いやすいような信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問して、実際にお会いして、様子を見せて頂き、その時必要とされている支援を見極め、ご要望をおききし、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で会話をし、色々教えて頂いたり、（料理法等）、「一緒に」をコンセプトに関係づくりをしている。可能な限り本人の意思を尊重し、要望等に耳を傾ける。食器拭き、掃除等ご利用者の負担にならない範囲で職員と共に参加して頂いている。個声できる状態を把握し、見守り行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限りご家族の協力を得るように働きかけている。ご家族が来所された時に、利用者、ご家族と話し、談笑することで、良好な関係を築ける様心がけている。わすれがちな大事なご家族の名前等を思い出して頂いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから出かけるのはなかなか難しいが、馴染みの方が面会にきてくださることもある。ご家族、ご友人が来所された時は居室にて過ごして頂いている。手紙が届いた時は、ご本人にお渡しし、時にないようをお伝えすることもある。うまれ育った場所等を聞き出し、傾聴する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話、活動等皆でやれるよう支援している。本人の負担にならない範囲で、洗濯物たたみや食器拭きに参加して頂きながら、可能な限り孤立しないような支援に努めている。職員が間に入り、孤立しない環境作りを心がけている。認知症の度合で利用者同士、理解できなかったり、戸惑ったりされる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院に見舞いに行ったり、変わられた施設へ面会に行ったりする。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活記録の書類の一番上にケアプラン、サービス内容が記載されており、毎日確認し、把握している。一人で過ごすことがお好きな方には居室でのんびり過ごして頂いている。コミュニケーションや日常の会話にて、どのように感じているか、何を望まれているか等を聞くように心掛けている。自由に外出できないことに不満を持つ利用者に対し、出来る限り一緒にでかける機会を持っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から拾ったり、入居時に記入して頂いている、センター方式のシートを参考にしている。いつでも閲覧できるように個人ファイルにまとめて綴ってある。これまでの人生経験等を考え過ごし方に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル計測の値および、顔色や表情を確認する。またコミュニケーションを図る中で、観察しながら、把握に努めている。一人一人と会話をして、心身の状態を把握するようにしている。申し送りや日々の寄り添った介助を行うことで、体調や心身の状態を常に把握できるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回担当者がモニタリング、アセスメント施行、6ヶ月に1回サービス担当者会議で意見を出し合い、ご家族にご要望をお聞きし、本人にとって最良のケアプランの作成を行っている。ケアの在り方の意見などを出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を評価を含めて記入している。日々の様子や気づきは個人記録を活用し、提案や意見がある場合はノート（連絡帳）を使用し、意思の疎通を図っている。できるだけ細かく、その日の心身状態等、観察し、記録することを心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科往診。歯科衛生士による口腔ケア、マッサージ師によるマッサージの施行、訪問美容等を利用している。必要があれば、眼科往診もして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア（バイオリン・歌）に来て頂いて、一緒に歌ったり、手拍子をして楽しんでおられる。近くのスーパー、神社、動物園、喫茶店へ出かけていく機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の提携医療機関の医師の往診を受けて頂いている。体調崩された時等は、往診日以外にも上申し、指示をうけている。それ以外で、本人、ご家族の希望、もしくは専門医受診の必要性があった場合は、他病院への受診をして頂くこともある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にきて頂き、その時に個々の利用者の状態、様子を報告し、適切な指示、助言を受けている。体調を崩された時等は上申にて指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行ったときに、病院関係者と状況を話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に記入して頂く用紙を渡している。その際にも説明をし、対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていない。マニュアルを作成していつでも閲覧できるようにしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は実施し、迅速に動けるようにしている。地域との協力体制は築かれていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方にあった声かけを、常に気をつけながらしている。利用者を傷つけないような言動については、常に細心の注意を払っている。利用者の聞こえる所での職員間の会話は控えるようにする		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人格を尊重し、行動把握している。入浴介助時や訪室して伺ったりしている。声かけに気をつけ、時には待つことも必要。手の動きや、目線で応えて下さることもあるので、注意深く細かくみることが大切である。会話の中で、希望等をお聞き出来る様問いかけている。レクレーションへの参加への有無、食事の好き嫌い等確認したり、傾聴している。業務に追われ、十分に行えていない部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は職員側で決めているが、それ以外はできるだけ希望に添える様に努力している。人手が足りない時もあり、思う様にいかないこともある。生活の中において、ご利用者のペースを第一に考え、ご負担にならない様支援している。働きかけが十分でない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服を選んで頂いたり、時にはご家族にも協力して頂いて、その人らしさがでるよう支援している。行事の時はお化粧をしている。清潔を保つように努力している。入浴後化粧水、乳液等されている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中に味付けはどうか等それぞれの好みをお聞きしたり、一緒に盛り付け、片づけ、テーブル拭きをして頂いている。その日の食材、食事を話題に会話している。メニュー等を知って頂く。短期記憶保っていくと同時に会話の一つとしてメニューを毎日利用者に書いて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に摂取量には配慮している。水分は小まめに勧め、種類を持たせられるようにしている（熱いのが好き等）必要な方については、毎日水分摂取量の記入をしている。食事摂取量については、全員記入し、形態も工夫している。状態を見ながら介助も行うが、食事介助者が多数だと食事中のスタッフの動きが慌ただしくなってしまう現状がある。又、体重増加傾向にある方もいるので、対策を考えなくてはいけない。職員同士申し送りし合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に応じた口腔ケアをし、清潔保持に努めている。歯科衛生士の方の記録を参考にしたり、やり方を聞いて行っている。必要な方については、スポンジブラシ等を活用している。義歯の方が多くなってきている。うがいがうまくできない方が増えてきた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄リズム（体調、量、時間等）を知り、トイレ誘導している。なるべくトイレに座って頂いている。Rパンツから布パンツになった方もいらっしゃる。利用者本人からトイレ訴えがあった時は必ず誘導し、排泄介助をすることで、排泄習慣を意識出来るよう支援している。排泄の多い方の誘導は回数が多くなるため、本人の負担も増してしまうので、パットの大きさ等を変えて対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけている。繊維質のものを摂取する、運動する、牛乳、センナ茶、下剤等、便秘の予防に努めている。消化する力が弱い方は、海藻類等は消化に時間がかかるので、ミキサーにかけて提供している。腹圧をかける運動や腹部マッサージを行うこともあるが、運動不足を補う取組が必要。起床時に水分の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で、曜日時間をきめてしまっている。しょうぶ湯、ゆず湯に入って頂いている。できる限り、入浴者同士でコミュニケーション取りやすい環境にしすこしでも楽しいことを共有できるようにしている。入浴拒否されているご利用者も中にはいらっしゃる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	随時、臥床して頂いて、休息を取って頂いている。安楽な体位を心がけている。タオルケットや毛布を使用されている方もおられる。居室で休んでいる場合や入眠中は職員の都合で声掛け、入室するのではなく、出来る限り、休息に専念して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大体理解している。服用しやすい形状にし、トロミで飲みやすくしている方もいらっしゃる。薬が変わった時は、効き具合等に気を付けている。誤薬しないよう、本人確認しながら服用頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存機能を把握し、できる範囲で体操、散歩、掃除、洗濯物たたみ、片づけ、盛り付け、食器拭き、雑巾縫い等に参加して頂きメリハリをつけて過ごして頂いている。居室に花を飾っておられ、楽しまれている方もいる。十分には支援されていない部分もある。訴えがある時は傾聴を行い、ボランティアによるレクレーションにも参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、散歩に行くようにしているが、現状回数を増やすのは厳しい状況である。時に喫茶店に行くこともある。家族と食事に出かけられる方もいらっしゃる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は一括して金庫で保管している。買い物に行った時は、レジでお金を渡して払って頂くこともあった。利用者本人の訴えがある場合は、可能な限り買い物に出かけ、お金を使えるように支援している。ご利用者によっては、残金が気になる方も見え、その都度声かけにて対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、スタッフが電話をかけてかわることがある。電話がかかってきた時は取り次いでいる。手紙が届いた時はどなたからのものなのかをお伝えし、お渡ししている。家族様の定期的な来訪が多い。手紙は字が書けない場合が多く難しいのが現状。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには花を飾っています。居間壁一面に季節感のあるディスプレイを飾り、写真も飾っている。居室入口に塗り絵、折り紙を飾り、居室内にカレンダーを貼っている。トイレ、浴室等は羞恥心に配慮しカーテン、のれんを設置している。毎日の清掃も丁寧に行っている。リビングでテレビ、雑誌等読まれ快適に過ごされているが、話し声をうるさく感じられる方もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にある長椅子に腰かけお一人の時間を作ったり、ソファには3人座って、雑談されたりしている。声かけ等で本人の意思を尊重し、利用者同士でもお話ができるように取り組んでいる。利用者が安心できるように机や椅子の配置を考え、利用者の意見も取り入れながら、快適に過ごして頂ける様支援している。席替えや自立の利用者に声をかけ、認知の進んでいる利用者と会話して頂くようにしている。居室に他ご利用者が入室され、長く話しをされていることがあり、お互いの疲れ等には配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、鏡台、座椅子は自宅から持ち込まれている方もあり、その人らしい雰囲気になっている。昔使用していたものや愛着があるものは居室に、安全を考慮し、配置してあり、好きな時に使用できる環境にある。写真や利用者が色塗りしたカレンダーなどを貼っている。自分の物の認識が薄れてきている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を示すように工夫している。居室入口に表札をして、好きな色に名前を書いて頂いたものを貼っている。できる事に参加して頂けるような声かけをしている。「できること、わかること」を踏まえて支援している。		